

クモヤ143・145

直流牽引車

共通組み立て説明書

注意

お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 誤飲の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 部品はきれいに切り取り、切り取った後のクズは捨ててください。
- マグネットカプラー（連結用の部品）は磁石を使用していますので、テレビ・時計・パソコンなどに近づけないでください。磁気で機能異常が起こる場合があります。

〈使用上の注意〉

- 取り付け部を無理な方向に引けたり引っ張ったりしないでください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった部分がありますので、気をつけて組み立ててください。
- 部品の加工の際の粉、工具などのご使用にあたっては、それぞれの取り扱い説明書をよく読んで正しく使用してください。
- Nゲージ鉄道模型のパーツなどのご使用にあたっては、それぞれの取り扱い説明書をよく読んで正しく使用してください。

〈お買い上げのお客様へ〉不都合な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

バンダイお客様相談センター

(東日本) 柏市豊四季2-1-22 ☎277-8511
(西日本) 大阪市北区豊崎4-12-3 ☎531-0072

●電話受付時間 月～金曜日(祝日を除く)10時～16時
●電話番号はよく確かめてお間違いないようご注意ください。

Nゲージのパーツ交換について

小さなお子様は保護者の方と一緒に加工してください。

■動力ユニットの取り付け (Nゲージの線路上を走行させることができます。)

●電車・気動車への動力ユニットの取り付け

* KATO製「小型車両用動力ユニット」を使用します。シャーシと交換・装着します。

品番11-105 通勤電車①: コイルバネ台車タイプ

品番11-106 急行電車①: 空気バネ台車タイプ

品番11-107 通勤電車②: ボルスタレス台車タイプ

品番11-104 チビ客車用動力ユニット

* KATO製「チビ客車用動力ユニット」を使用する場合は、手すりを切り取ってからシャーシと交換・装着します。

●トレーラー車への台車取付

* 動力を入れない車両には、台車を取り付けます。

品番11-099 通勤電車①: コイルバネ台車タイプ

品番11-098 急行電車①: 空気バネ台車タイプ

品番11-097 通勤電車②: ボルスタレス台車タイプ

* 床板に直接、ピン取り付け方式の各種台車を取り付けることができます。

●機関車への動力ユニットの取り付け

* KATO製「ポケットライン用動力ユニット」を使用します。このとき、スカートは外してシャーシと交換・装着します。

品番11-103 ポケットライン用動力ユニット

* 11-103は、購入時にはカプラーポケットの内側にストッパー(プラ小片)が入っていますので、必ずストッパーを取り外してから装着してください。

■パンタグラフの交換

* お好みのNゲージ用パンタグラフを別途お買い求めの上、交換してください。

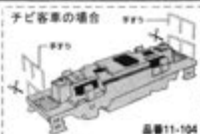
品番11-401 PS14: 直流パンタグラフ

品番11-403 PS22: 直流下枠変形パンタグラフ

品番11-404、11-420 PS16: 直流パンタグラフ

* ピン圧入方式の各種パンタグラフを取り付けられます。

* 各種の交換パーツについては、鉄道模型店、ホビーショップなどでお買い求めください。
* トレーラー台車、パンタグラフなどの交換パーツは、メーカー、形式によって取り付けが異なるものもありますので、この場合はそれぞれ調整のうえ取り付けください。



シャーシの組立

1

〈台車の組立〉

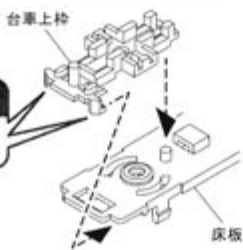
* 前後・2組の台車をそれぞれ組立ます。

(上下を逆さまにして組立てると楽です。)

* 説明イラストは上下逆になっています。

向きに注意!

台車上枠の向きに注意してください



2

選択して取り付けてください

* 先頭車の前側には、ダミーカプラーを使用します。

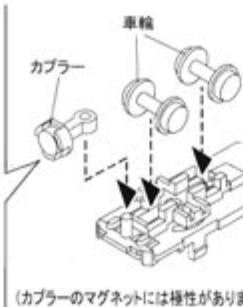
ダミーカプラー
(連結は出来ません。)

ドローバー
(2箇所を固定連結する場合に使用します。)

密着連結器
(JR電車ほか)

自動連結器
(各車・気動車ほか)

(ディスプレイ線路の連結にも使用します。)

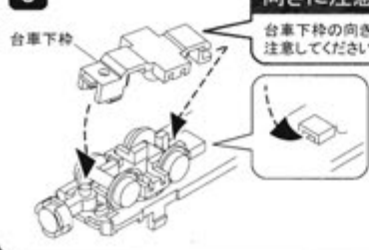


(カプラーのマグネットには極性があります。)

3

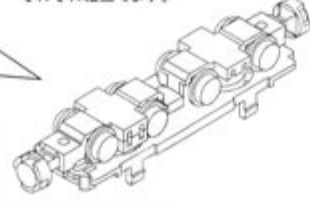
向きに注意!

台車下枠の向きに注意してください



〈台車の完成〉

* 前後・2組の台車をそれぞれ組立ます。

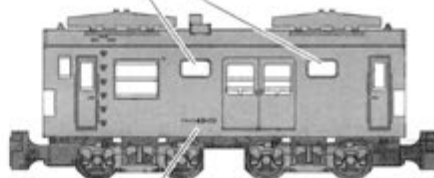


ステッカーの貼付け位置

* 台紙から切り抜いて貼ってください。
(対物のお取り扱いにはご注意ください。)



* 窓保護は必要な長さに切ってガラスの内側から貼ります。



車体番号
**143・10

* 貼付け位置は実車と異なります。イラストを参考に組み立ててください。

4 〈台車レリーフの取付〉*レリーフの向きに注意してください。



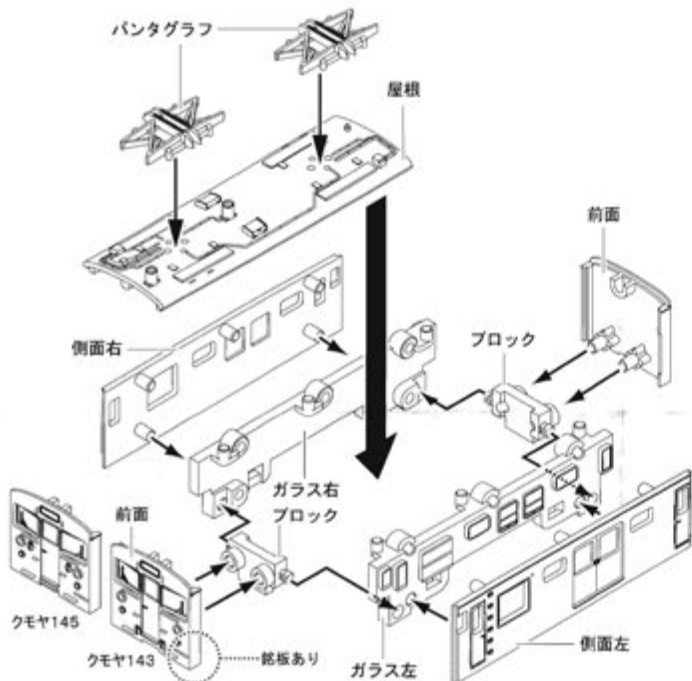
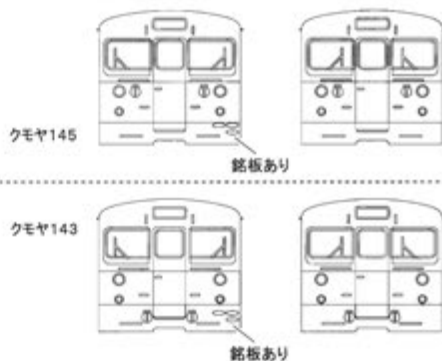
* 台車レリーフを取付けて、シャーシの完成です。

車体の組立て

- ①左右のガラスの前後にブロックを取り付けます。
*ブロックの上下の向きに注意して、パチンと奥まではめ込んでください。
- ②屋根を取り付けます。
(パンタ付きの車両はパンタグラフを取り付けます。)
- ③左右の側面を取り付けます。
*妻板の凸部をきちんとはめ込んでください。
- ④シャーシのつめに合わせて車体をかぶせます。
- ⑤前面を取り付けて完成です。

*取り付け部が固い場合があります。その場合にはドライバーの先などを利用して、しっかりと取り付けてください。

正面について



*取説に記載されている車両は、バリエーション内の一部です。正面パーツ、屋根パーツなどは、車種・塗装によってセットされているパーツが異なりますのでご注意ください。

クモヤ143について

1976年から1980年までに21両が製造された直流牽引車。それまでの牽引車のほとんどが、種車からの改造によって製造されたものでしたが、クモヤ143形は新製による車両です。発電ブレーキ、抑速ブレーキを備えています。台車形式はDT-21C。首都圏のATCに対応しているのが特徴で、そのため全車ともJR東日本の首都圏周辺にある車両基地に配置されています。特に山手線を受け持つ山手電車区(現・東京総合車両センター)には7両が配置され、構内の入れ替えや入出場車の牽引に使われるほかに、マヤ34拘束軌道検測車による首都圏区間内の検測時牽引にも活躍していました。また、国府津区や松戸区など最寄り駅から離れて位置する車両基地では、職員を最寄り駅から輸送するのにも使用されています。なお、クモヤ143-51,52の2両は、クモニ143形からの改造車(車体は元のまま)のため、一般のクモヤ143とは車体形状が異なります。またATCにも対応していません。

クモヤ143 配置一覧 (1979年頃)

143-1	北ウラ	-5	千マリ	-9	南シナ
-2	南カマ	-6	北イケ	-10	南フナ
-3	千ツヌ	-7	北モセ	-11	北マト
-4	千マリ	-8	南シナ	-12	北マト

(2003年頃)

143-1	宮ウラ	-6	横クラ	-10	千マリ	-14	東ヤテ	-18	東ヤテ
-2	横クラ	-7	千ラシ	-11	宮ハエ	-15	東ヤテ	-19	千マリ
-4	横コツ	-8	東ヤテ	-12	東マト	-16	東ヤテ	-20	東マト
-5	横クラ	-9	東ヤテ	-13	千ラシ	-17	東チタ	-21	東チタ

(2007年)

143-1	宮ウラ	-6	横クラ	-10	横コツ	-14	東トウ	-20	東マト
-2	横クラ	-7	横コツ	-11	宮ハエ	-15	東トウ	-21	東チタ
-4	横コツ	-8	東トウ	-12	東マト	-16	東トウ		
-5	横クラ	-9	東トウ	-13	千マリ	-19	千マリ		

*牽引車: 動力を持たない車両や中間電動車などの移動や試運転の場合には自走ができないので、牽引車を連結して運転を行います。工場や電車区の中での修理中の車両などの移動にも使用されます。また、一部の工場や電車区では、最寄りの駅からの職員輸送に使われているところもあります。

車体番号

標準仕様		標準仕様		標準仕様		
標準仕様 1	標準仕様 1	標準仕様 2007	標準仕様 2007	標準仕様 100	標準仕様 100	●●●●
標準仕様 2	標準仕様 2	標準仕様 2008	標準仕様 2008			●●●●
標準仕様 3	標準仕様 3	標準仕様 10000	標準仕様 10000			●●●●
標準仕様 4	標準仕様 4	標準仕様 2000	標準仕様 2000	標準仕様 100	標準仕様 100	●●●●
標準仕様 5	標準仕様 5	標準仕様 3000	標準仕様 3000	標準仕様 200	標準仕様 200	
標準仕様 6	標準仕様 6	標準仕様 4000	標準仕様 4000	標準仕様 300	標準仕様 300	
標準仕様 7	標準仕様 7	標準仕様 5000	標準仕様 5000	標準仕様 400	標準仕様 400	
標準仕様 8	標準仕様 8	標準仕様 6000	標準仕様 6000	標準仕様 500	標準仕様 500	
標準仕様 9	標準仕様 9	標準仕様 7000	標準仕様 7000	標準仕様 600	標準仕様 600	
標準仕様 10	標準仕様 10	標準仕様 8000	標準仕様 8000	標準仕様 700	標準仕様 700	
標準仕様 11	標準仕様 11	標準仕様 9000	標準仕様 9000	標準仕様 800	標準仕様 800	
標準仕様 12	標準仕様 12	標準仕様 10000	標準仕様 10000	標準仕様 900	標準仕様 900	
標準仕様 13	標準仕様 13	標準仕様 10000	標準仕様 10000			
標準仕様 14	標準仕様 14	標準仕様 10000	標準仕様 10000			
標準仕様 15	標準仕様 15	標準仕様 10000	標準仕様 10000			
標準仕様 16	標準仕様 16	標準仕様 10000	標準仕様 10000			
標準仕様 17	標準仕様 17					
標準仕様 18	標準仕様 18					
標準仕様 19	標準仕様 19					
標準仕様 20	標準仕様 20					

富保規格

※富保規格は標準仕様とは異なり、標準仕様とは異なる場合があります。

クモヤ用

富保規格